

質問

耐震化はどうなっているのか

町長

中期財政計画のなかで検討している



藤原 充博 議員

質問 ひとり暮らしの高齢者の方や介護が必要な方のうち、

災害が発生した場合、助けて欲しいと、町に申請された方は現在どれくらいおられるのか。

町長 奥出雲町災害時要援護者支援制度により、自力や家族だけで迅速な避難行動が困難な方については、避難情報の伝達や安否確認、避難所に一緒に避難するなど地域の中で支援を行っていた。

ひとり暮らしや高齢者のみの世帯の方、障害のある方、介護が必要な方など要援護者571名と、その方々の支援を行う地域支援者535名が、それぞれの同意のもと登録されている。

質問 本町の耐震化の状況はどうか。

教育魅力課長 阿井 公民館が昭和48年度、布勢公民館が昭和47年度建設で、新耐震基準施行前だ。亀嵩基準集落センターは昭和61年度の建設で、新耐震基準にて設計施工されている。

教育長 社会教育施設については、大きな地震の際には使えないことが想定される。その場合は既存の残った施設の中でどう運用していくかが重要になる。

財政状況をみながら10年の中期財政計画ではどの施設も耐震改修をするという計画を考えている。

質問 布勢小と三成小の耐震化はどうか。

町長 三成小は今後20年30年先を見据え、将来の学校再編計画に資するべく、仁多中敷地内への移転を計画している。

布勢小は将来の学校再編計画を今年度中に教育委員会にて策定するので、今後さまざまな議論を踏

まえながら将来を見据えた施設整備となるよう進める。

質問 旧仁多病院の老人保健施設は、要

援護者の方がたくさんおられ、地震、火事の場合は大変なことになる。早急に対応すべきではないか。

町長 老健については、中期財政計画を基に、できる限り早急に建てかえをした

い。できれば病院近くがベストというところで現在検討している。有利な補助制度がないか県に要望活動をしている。



建てかえが検討される老人保健施設